



ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成25年7月20日発行(毎月1回20日発行)

ふるさとだより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2013年

Jul

NO.26

7

Pick up

夏祭りに向けて

ふるさとの祭りの裏舞台を支える…四倉・小名浜



今月の子どもたち

菊田スポーツ少年団
バレーボール部

木村 愛海ちゃん(左)
吉田 怜権ちゃん(中)
平山 莉己ちゃん(右)



久之浜・大久



四 倉



平



小名浜



勿 来

久一小 防災緑地総合学習
オーガニックのTシャツ完成

次代の担い手たち
ねぶたの製作が佳境へ

若手木工作家の活躍
豊間アカデミー発進

夢花火プロジェクト
永崎地区防災緑地WS

なこそ授産所の活動
植田町でプチ歩行天



防災緑地について 久之浜の未来を考えよう 子どもたちの考える防災緑地



6月7日総合学習の初日、海岸の防災緑地実寸大模型を見学しイメージを膨らませていきました

必要なもの、 欲しいものは何？

翌週の授業から児童たちは防災緑地の持つ主な3つの機能（①防災、②久之浜の活性化、③久之浜の良さ）から項目を選び、防災緑地に

久之浜一小で総合学習

久之浜一小で6月7日から6週連続で金曜日の3、4校時、計12時間に及ぶ防災緑地を考える総合学習が行われました。初回授業では、県の担当者から、地区の防災計画や防災緑地についての説明を受けました。児童たちはメモを取るなどして熱心に説明を聞いていました。

総合学習の成果と7月13日の第4回防災緑地ワークショップでの大人たちに向かって発表については、次号でお伝えします。

久之浜一小で6月7日から6週連続で金曜日の3、4校時、計12時間に及ぶ防災緑地を考える総合学習が行われました。初回授業では、県の担当者から、地区の防災計画や防災緑地についての説明を受けました。児童たちはメモを取るなどして熱心に説明を聞いていました。

必要なもの、欲しいものをグループに分かれて話し合いました。「防災緑地に合った植物は何?」、「多くの人に漁の体験をしてもらつて獲れた魚で水族館を作ろう」、「花が咲くきれいな小路を作ろう」、「幼稚園のあつた場所に動物ふれあい広場を作ろう」、「子どもらしい自由な発想から出てくる様々なアイデアが、用意された白地図の上に広がります。」5、6年生56名の描く防災緑地には明るく輝く久之浜の未来が見えています。



6月22日に開かれた防災緑地ワークショップで総合学習の経過を報告する久之浜一小松本光司校長



防災緑地への植栽について、樹木医の木田都城子先生からアドバイスをもらいながら考えました



久之浜・大久地区まちづくりサポートチームのメンバーと一緒に防災緑地について話し合いました

第3回防災緑地ワークショップ 稻荷神社の現位置保存の方向へ 防災緑地の協議大詰め

6月22日、久之浜・大久支所で第3回防災緑地ワークショップ(以下「WS」)が開かれました。冒頭、稻荷神社の現位置保存が発表され、「残すことは難しいとされていた神社が残せることになった。みんなさんの熱い思いの賜物」と久之浜・大久地区復興対策協議会吉原二六会長から挨拶がありました。

また、久之浜一小での総合学習の途中経過について松本校長から報告があり、大人の視点・考え方だけでなく、将来防災緑地の育成管理を担う子どもたちの思いを活かせるようWSを進めることができました。

過去2回の結果を踏まえ、防災緑地を①交流ゾーン、②記憶の継承ゾーン、③海辺の憩いゾーンに分けたイメージ案が提示され、グループでの話し合いが進みました。「ゾーン分けはこれでよいのか?」「それぞれのゾーンにはどんなものが必要か?」「防災緑地を経て浜へ抜ける道をどのように配置すべきか?」「植栽をどのようにすべきか?」3回のWSを経て当初漠然としていた防災緑地に対するイメージが明確になりました。

ワークショップの参考に 海から見る久之浜の今

「海から久之浜を見て、防災緑地ワークショップに役立てよう」と6月11日、一隻の船が久之浜漁港を出航しました。乗り込んだのは、県防災緑地アドバイザーを務める廣瀬俊介先生、いわき建設事務所職員、そして久之浜・大久地域づくり協議会役員ら総勢15名。「何より堤防の高さ



防災緑地の実物大模型そして現位置保存となる予定の稻荷神社の姿が見えます

に驚きました。その高さを超えた津波は押し寄せて来た。防災緑地のありかたについて改めて感じるものがありました」と同協議会木村芳秀会長。海から見た久之浜の様子は防災緑地ワークショップの進捗状況のパネル展、そして左記第3回ワークショップでも伝えられ、震災後初めて目にする久之浜の姿に参加者は見入っていました。

復興へ向けた動き

久之浜
大久

金ヶ沢防災集団移転団地の
造成工事現場見学会

防災集団移転する末続及び
金ヶ沢両地区的移転先団地、そし
て120戸が入戸予定の災害公
営住宅の土地造成工事が進んで
います。

6月15日、大久町北田地内の
金ヶ沢地区防災集団移転団地で
移転を希望する住民に向けた工
事現場見学会が開かれ、市担当者
から現在進行中の地盤改良工事
についての説明がありました。
日々聞こえてくる工事の機音で復
興へ向けた動きを着実に実感でき
るようになってきた久之浜です。



軟弱地盤の水抜きと強度増加を
促進させるドレン工法が行われ
ている地盤改良工事の現場見学



海岸堤防のかさ上げ工事が進む久之浜海岸



土地造成工事が進む災害公営住宅建設予定地



地盤改良工事が進む末続地区防災集団移転団地



全国大会に向け指導員の遠藤さん(左)との厳
しい練習の毎日です

熙之君が出席する全日本卓
球選手権大会は、7月26日か
ら神戸市で行われます。

渡邊熙之君がお兄さんの影
響で卓球を始めたのが小学2
年生の時。毎日お兄さんと練
習を続けました。今も水曜日
以外の週6日指導員の遠藤久
雄さんのもと卓球に打ち込む
毎日です。「30年ほど子どもた
ちの卓球指導をしていますが、
全国大会に出場する子と出会
えるとは驚きです。津波で全て
をなくしてしまったけど、熙之
君に勇気をもらっています」と
笑つて話す遠藤さん。そしてそ
の傍らの卓球台で先輩を相手
に鋭い球を打ち込む熙之君
「目標は1勝。でも夢は大き
く、全国制覇」。



久之浜一小6年
渡邊 熙之 君

目指せ！全国初勝利！
浜つ子卓球全国大会出場

久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日:平成25年6月26日(天候:曇りのち雨)
- 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会
- 測定器:日立アロカメディカル製 TCS-172
(シンチレーションサーバイメーター)

測定ポイント	地上 1cm	地上 100cm
田之網(田之網集会所)	0.12	0.12
南町(旧道沿い中央部)	0.09	0.11
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.11	0.11
北町(久之浜駅前)	0.15	0.16
東町(旧久之浜漁協前)	0.12	0.10
西町1区(西町公園付近)	0.18	0.18
西町2区(久之浜一小正門付近)	0.30	0.20
金ヶ沢(鹿野付近)	0.25	0.17
末続(末続駅前)	0.22	0.20
大久(大久公民館付近)	0.17	0.14
筒木原(久之浜二小西門付近)	0.14	0.11
小久(町田橋付近)	0.12	0.13
小山田(小山田集会所付近)	0.17	0.16

単位はすべてμsv/h

※(株)東北イノベーターのHP
<http://www.thkinnovator.co.jp/> で
より詳しい放射線情報をご覧いただけます。

2年目のオーガニックコットン

Tシャツも
できました!



いわきおでんとSUN企業組合とNPO法人ザ・ピープルが中心となって進める農薬と化
学肥料に頼らない綿花の栽培。昨年収穫で
きた綿花は市内15ヵ所で約300kg。久之浜・
大久地区で今年も栽培がスタートしました。
5月11日には東京からの45名のボランティ
アが畑を耕し肥料をまき4,000個のポットに
種植え作業。6月15日にも約50名が畑の整
備と芽を出した綿花を畑に植え込む作業を行いました。

6月22日には昨年栽培された綿花を使
い作られたTシャツのお披露目が大久の綿花畑
で行われました。主催者を代表し、ザ・ピープ



Tシャツ完成披露セレモニーが行われた大久の畑にて。オーガニックコットン2年目の挑戦が始まっています

ルの吉田恵美子理事長が「いわきで栽培さ
れた綿がTシャツとなって帰って来ました」と
挨拶。いわき産の綿の混合率は5%ですが、
今年は耕作面積も2倍に増え、栽培量を増や
し混合率を上げていく予定です。いわきでの
新たな繊維産業づくり、そして雇用創出をめ
ざして挑戦は続きます。

▼天気が曇りだつたため悪戦苦闘しながら、壁に映った虹の写真を撮る生徒たち



▲吉田重信さん(左)の指導で昇降口の天井に虹が現れました

平成7年のふくしま国体のマスコットで、現在は県の復興シンボルキャラクターのキビタンが6月25日、四倉第一幼稚園を訪問しました。

キビタンが復興に向けて頑張る人たちを訪れ、元気と希望を届ける、県の「ふくしまからはじめよう。キビタンが行く！」事業の一環。園児45名と保護者らは、間借りしている四倉小の礼法室でチームキビタンの一行とクイズ大会やダンスをした後、プレゼントの贈呈や記念撮影など楽しい時間を過ごしました。

市内在住の現代美術家吉田重信さんによる「光と水に遊ぶ」虹のワークショップが市立美術館主催で6月4日、四倉中で行われました。1年2組の26名が参加し、水を張ったバケツに鏡を入れ、角度を調節しながら太陽の光を反射させると、校舎の壁などに虹が出現。生徒たちは、光と水について考え、仲間と協力する楽しさを経験しました。このワークショップは市内5校で開催され、撮影した作品は8月7日から9月1日まで、いわき芸術文化交流館アリオスに展示されます。

ワークショップで光と虹に親しむ

市内在住の現代美術家吉田重信さんによる「光と水に遊ぶ」虹のワークショップが市立美術館主催で6月4日、四倉中で行われました。1年2組の26名が参加し、水を張ったバケツに鏡を入れ、角度を調節しながら太陽の光を反射させると、校舎の壁などに虹が出現。生徒たちは、光と水について考え、仲間と協力する楽しさを経験しました。このワークショップは市内5校で開催され、撮影した作品は8月7日から9月1日まで、いわき芸術文化交流館アリオスに展示されます。



▲音楽に合わせて元気にキビタンダンスを踊りました

▼顔をなでたり握手をしたり、キビタンと触れ合う園児たち



幼稚園にキビタンがやって来ました

平成7年のふくしま国体のマスコットで、現在は県の復興シンボルキャラクターのキビタンが6月25日、四倉第一幼稚園を訪問しました。

キビタンが復興に向けて頑張る人たちを訪れ、元気と希望を届ける、県の「ふくしまからはじめよう。キビタンが行く！」事業の一環。園児45名と保護者らは、間借りしている四倉小の礼法室でチームキビタンの一行とクイズ大会やダンスをした後、プレゼントの贈呈や記念撮影など楽しい時間を過ごしました。



～輝け! 次代の担い手たち～

学校で地域で多彩な行事が開催

子どもたちは故郷の自然、文化、伝統を受け継ぐ次代の担い手です。
震災が子どもたちに与えた影響は少なくありませんが、学校行事などを通して、困難を乗り越えて成長する姿を追いかけました。



▲岸田力さんの指導でポーズを決める参加者。身体が少しずつ動きに慣れてきました

▲合計3回の練習を経て復興祭のステージへ。本番が楽しみです



▼模型を使ってピアノの構造を説明する長瀬さん。児童たちは興味津々



▲子犬が自分の尻尾を追いかける様子を曲にした「子犬のフルツ」も演奏

市役所ラグビー部を母体とする「いわきブルーブレイブス」が主催する「いわきスポーツ経験隊」が、茨城県つくば市の「NPO法人 Dance Association Seeds」と連携して、7月21日のふくしま復興祭のステージでダンスを披露します。

6月8日、練習会場の大浦小体育館には、同経験隊に参加するため、四倉小などの児童ら約30名が集まりました。講師の岸田力さんの指導で、ダンスの基本となるステップやジャンプを練習した後、本番で踊るC & Kの「DanceMan」の曲に合わせて体を動かしました。

復興祭に向けてダンス練習

おでかけアリオスのピアノコンサートが6月6日、四倉小の音楽室で開かれ、4年生62名が参加しました。

いわき出身のピアニスト長瀬賢弘さんがベートーヴェンのピアノソナタ第14番「月光」より「シンデレラ」から6つの小品を演奏し、その曲がどの場面なのかを児童に質問。

長瀬さんは「自分はこう感じたという独創する気持ちを大切にしてください」とメッセージを送りました。

アーティストが6月6日、四倉小の音楽室で開かれ、4年生62名が参加しました。

音楽室で開かれ、4年生62名が参加しました。

長瀬さんのコンサート



7月27日開催の「第29回四倉ねぶたといわきおどりの夕べ」。当日は、人物などを立体的に表現した「ねぶた」と、平面的な美しさが魅力の「ねぶた」が町内約2kmを練り歩きます。

祭りの目玉は、台車を含めた高さが約4・5mになる組みねぶたで、今年の題材は雷神。本番を目前に控えて、四倉漁港近くにある作業所では、善友会のメンバーが製作に取り組んでいます。



今年、善友会では、ねぶたとねぶたを各3基ずつ製作する予定です

ねぶた製作が佳境に

今年は青森県出身で、本場のねぶたづくりに関わってきた工藤和男さんが製作に参加。東京電力の関連会社に勤務する工藤さんは、震災後に転勤のため広野町に住むようになりました。昨年、ニュースの映像などで2年ぶりに復活した四倉のねぶたの存在を知り、縁があり歩いています。

会長の佐藤良孝さんは、「ねぶたで四倉の町を活気づけて少しでも復興のお役に立ちたいですね」と、故郷と祭りへの思いを話します。

四倉の夏の夜を彩る風物詩、ねぶたの勇姿は今年も住民を元気づけながら、町を練り歩くことでしょう。

今年は青森県出身で、本場のねぶたづくりに関わってきた工藤和男さんが製作に参加。東京電力の関連会社に勤務する工藤さんは、震災後に転勤のため広野町に住むようになりました。昨年、ニュースの映像などで2年ぶりに復活した四倉のねぶたの存在を知り、縁があり歩いています。

会長の佐藤良孝さんは、「ねぶたで四倉の町を活気づけて少しでも復興のお役に立ちたいですね」と、故郷と祭りへの思いを話します。

四倉の夏の夜を彩る風物詩、ねぶたの勇姿は今年も住民を元気づけながら、町を練り歩くことでしょう。



初夏を思わせるあでやかな着物と優雅な踊りで会場を魅了しました

道の駅で 伝統文化に触れる

6月17日、京都・宮川町にある「お茶屋しげ森」の芸妓さんと舞妓さんが、道の駅を訪問しました。潮風が香るふれあい広場で優雅な踊りを披露しました。梅樂さんが古典落語を披露。来場者は軽妙な語り口に聞き入っていました。

6月22日、よかつべ市に合わせて初めて開催した「よつくら寄席」では、はりま家扇べえさん、桃源郷お氣楽さん、東風家梅樂さんが古典落語を披露。来場者は軽妙な語り口に聞き入っていました。



古典落語「看板のピン」を演じるはりま家扇べえさん

お知らせ

浜辺で 親子大バーベキュー大会

道の駅よつくら港前でバーベキューや流しうめんを行います。ステージでは大声コンテストや音楽の演奏などが行われます。

- ◆日時／8月11日(日) 11:00～15:00
- ◆場所／道の駅よつくら港前野外

道の駅に 音無美紀子さん来場

道の駅よつくら港リニューアル1周年イベントの一環で、東日本大震災の被災地で復興支援活動を続ける女優・音無美紀子さんと素敵な仲間たちによる歌声喫茶が開かれます。

- ◆日時／8月11日(日) 18:00～19:00
- ◆場所／道の駅よつくら港交流館2F

大浦公民館まつり開催 芸能発表も展示も大好評

6月23日、「第22回大浦公民館まつり」が開催されました。芸能の部では合唱、民謡、伝統芸能、健康体操などのサークルが日頃の練習の成果を発表。

展示の部ではパッチワーク、木彫、つるし雛、絵手紙などが並び、来場者は力作の数々に見入っていました。

公民館前の駐車場では、おにぎりや焼きそば、おでんなどの屋台が出店し、大浦そば打ち愛好会による手打ちそばの実演販売などもあり、会場は終日にぎわいました。



「荒城の月」「花は咲く」などを演奏した「四倉大正琴愛好会」

NPO法人よつくらぶ総会開催

NPO法人よつくらぶの平成25年度第5回通常総会が6月26日、道の駅よつくら港交流館2階で開かれ、平成25年度及び26年度の事業計画案などのほか、NPO法の改正などによる定款の一部変更が承認されました。

今年度も四倉漁港・海岸を生かした観光拠点づくりや農水産業の振興、よつくら元気プロジェクト事業、東日本大震災孤児支援事業、屋内遊び場確保事業などに取り組みます。



多彩な事業で四倉の復興と活性化を図るよつくらぶ

ふるさとの星

豊間の復興を願つて… 若手家具作家が活躍中

震災後、家の基礎だけが残る豊間地区で、ハンドメイドの家具をインターネット販売している若者がいます。

四家充裕さん、27歳。平成21年10月に独立。翌月からホームページを開設し、オーダークションサイトでの事業展開を行つ

てきました。

そんなときに襲つた大震災。祖父の家が流され、まち全体が悲しみに包まれ、空気も変わつてしましました。一時は近くのお寺で避難生活を送つていましたが、インターネットでの受注分の制作もあり、1ヵ月



四家 充裕／木工兼革作家
昭和60年　いわき市生まれ
平成20年8月　全国技能五輪埼玉県大会最優秀賞 受賞
平成21年3月　埼玉県立川越高等技術専門校木工芸科卒
平成21年9月　家具製作2級技能士取得
web shop <http://www.furniture-olu.com>

充裕さんは左利きで工具も左用を使っています



実家の離れを改造した古民家のような作業場



アンティーク風リトルサイドテーブル(左)、アンティーク風ライブラリーキャビネットハーフ(右)。アンティーク加工が施されたかわいい商品です



引き出しがたくさんあるように見えますが、実はダミー加工で実用的な大きさです

昭和の歌姫・美空ひばりさんの命日に合わせて毎年行われていた供養祭が今年は1日前の6月23日の日曜日にひばりの苑で行われました。主催者あいさつでは塙屋崎薄磯観光組合鈴木一好組合長から「震災から2年数カ月経ちましたが、復興にはまだ時間がかかると思います。供養祭は継続して行いますが、組合としては、地区に灯りが灯るまでは大きなイベントは自粛したいと考えております」と話していました。



▲ひばり碑に献花する塙屋崎薄磯観光組合鈴木組合長

▼踊りを披露する湯本温泉芸能保存会「芸の虫」メンバー。伏見栄子代表は「震災後としては初参加でこれからも継続していきたい」と話しました。このほかにも3チームが参加



昭和の歌姫に捧ぐ

埼玉より、復興資金贈呈

6月5日、大宮中央ライオンズクラブの14名が豊間復興協議会を訪問。同クラブの伊藤英信会長から、豊間区の復興のため、チャリティーコンサートで集められた20万円を鈴木徳夫協議会会長に手渡しました。

大宮ライオンズクラブは豊間地区にあつた民宿へえびすやと親交があり、人の絆を強く感じました。



群馬からの祈り

5月22日群馬県渋川市から渋川市環境美化推進協議会渋川地区のメンバー約20名が薄磯地区へ視察で訪れ、薄磯海岸慰霊台に献花していました。



薄磯地区の現状を見て献花して深く祈りを捧げる視察メンバー

▶初めてのスプレーを使った作業に楽しそうに花を描いて行く小学生たち



◀みんなで絵を仕上げていきます。奥には外国人の参加者もいて、国際交流も出来ました



▲この日偶然通りかかった中学生も参加しました。鈴木悠介君(右)、鈴木裕人君(左)

が消えていきます。その前に子どもたちの思い出づくりをお手伝いできればと実施しました。今後もキャンプなどの企画を計画しており、いわきの子どもたちとの交流を続けて行きたい」と笑顔で話していました。

進むにつれ、かつての町の面影が消えていきます。その前に子どもたちの思い出づくりをお手伝いできればと実施しました。今後もキャンプなどの企画を計画しており、いわきの子どもたちとの交流を続けて行きたい」と笑顔で話していました。

6月30日、薄磯地区で

NPO法人VIDA(ヴィーダ)主催の「がれきに花を」ワークショップが開催されました。

豊間地区の小・中学生とスタッフ合わせて約20名が参加。あらかじめ承諾をもらっていた敷地の基礎部分に、型紙とカラースプレーで花を描きました。

嶋村仁美代表は、「復興がスプレーで花を描きました。」

アートで町の思い出づくり

新潟区長あいさつ 薄磯地区より

新潟区長あいさつ



薄磯区長 鳥居 喜一郎さん

早いもので東日本大震災から2年が経ちます。前区長はじめ役員の方々におかれましては、震災以降大変ご苦労なされましたことを、心から感謝申し上げます。

今後は前役員のみなさまが築き上げてきたことを引き継ぎ、一日も早い薄磯の復旧・復興のために、区役員が一丸となつて全力を尽くして参ります。引き続き区民のみなさまのご協力やご鞭撻をよろしくお願い致します。

お詫びと訂正

25号で紹介した薄磯地区の新役員で誤りがありました。関係者の皆さまにご迷惑おかけいたしました。

訂正

神社総代長 佐藤政井比佐和敏
坂本武一

市内初の試み 豊間アカデミー発進 「とよま、いきまーす！」



▲4、5年生学習担当の「わたなべ英数塾」代表・渡辺稔さん。児童たちにもわかりやすいと好評でした

▼新しい考え方方に自然と真剣な目になります



豊間小学校では市内初の試みとして、「豊間アカデミー」がスタートしました。これは同校PTAの主催で、塾と学校が連携し、児童の学習をサポートするほか、民間講師が体力増進のために運動を指導するというもの。

全学年対象で1~3年生は体力育成主体で、4~6年生は学力を主に養います。初日は6年生の算数の授業と1~3年生の運動が行われました。

6月17日には特別講師にプロ陸上選手の秋本真吾さんを招いて4~6

年生にハーダルの指導を行いました。



▲秋本選手を見送りに来た5年生と記念撮影



▲1~3年生運動担当の「ラビット体操クラブ」代表・桐生良勝さん。トランポリンやマット運動で児童たちの目は輝いていました

▶特別講師秋本真吾プロ陸上選手(為末大のライバルで親友)の本物の走りに児童たちもびっくり



60周年という記念すべき節目となる今年、子どもたちと一緒に何かできないかと考えた、いわき花火大会の実行委員会。震災から2年が経つた今、あの日のことを忘れることなく今まで過ごしてきた子どもたちの想いを花火玉に乗せて打ち上げよう、「夢花火プロジェクト」を行うことになりました。

同プロジェクトは、小名浜方部と市内沿岸部の小学校19校を対象に進められており、子どもた

書きました。6年生江名小学校では、5年生19名、6年生25名の計44名が将来の夢や願いを書き込みました。6年生

ちがメッセージを書いた和紙を貼り付けた花火玉を大会当日に打ち上げる予定。そのほか、花火玉のレプリカにもメッセージを書き込みました。このレプリカは、7月27、28日に海遊祭の特別ブース（小名浜潮目交流館）で作成時の写真とともに展示されたのち、記念品として各学校に寄贈されます。

の谷春奈さんは「自分の夢が空に打ち上げられるのがうれしい。楽しみしています」と笑顔を咲かせました。



小名浜のシンボル「三崎公園」や花火の絵が描かれた花火玉

夢が詰まった花火をきれいに打ち上げられるように…

「夢花火プロジェクト」で使用する子どもたちの願いを乗せた花火玉を作った6社のうちの1つ、須賀川市にある糸井火工。県内外、十数ヶ所の花火大会で使用される花火玉を手がけています。

いわき担当の添田弘貴さんは「子どもたちが一生懸命夢を書いた花火をきれいに咲かせてあげたい」と話しました。

1. 子どもたちの夢や願いが書かれた和紙を一枚一枚丁寧に貼り付けていきます
2. 完成した花火玉を持つ添田さん(右)、相谷(中)、草野さん

有限会社 糸井火工



花火玉のレプリカに将来の夢や願いを書き込む江名小6年生(左から松本さくらさん、吉田克也くん、四家明佳さん、吉田凌くん、吉田真輝くん)

「いわき花火大会」60周年記念事業

子どもたちの夢と希望を夜空に咲かせよう

——夢花火プロジェクト——

イベント日程

○おなはま海遊祭

- 日時 7月27、28日 10:00～16:00
- 会場 アクアマリンパーク

○いわきおどり小名浜大会

- 日時 8月2日 17:00～20:45
- 会場 県道小名浜・平線(鹿島街道)

○第60回いわき花火大会

- 日時 8月3日 19:00～20:30
- 会場 アクアマリンパーク

■江名区盆踊り大会

- 日時 8月14日、17:00～20:30
- 場所 江名漁港

■永崎盆踊り

- 日時 8月16日、19:00開始予定
- 場所 蓮乗院境内

津波被害を風化させないことを目的として、6月16日小名浜を中心とした市内海岸線の歩道をコースに「いわきゴミ拾い駅伝」が行われました。3区間7kmと5区間29kmの2つのコースが設定され、拾ったゴミの量とゴールまでの到着時間をポイントとし、全国から11チームが参加して順位を競いました。

ゴミ拾い駅伝は全国各地で開催されており、平成18年に正月恒例の箱根駅伝区間で行つたことが起源。

参加者はゴミ拾いを通じた地域貢献と一日も早い復興を願いながら、たすきをつけました。



小雨の降る悪コンディションの中、参加者は風景を楽しみながらゴミ拾いをしました

**ゴミ拾いで
地域の未来に
たすきをつなぐ**

復興へ向けた動き

小名浜

第2回津波避難のための懇談会（小名浜地区）

第2回津波避難のための懇談会が6月17日に小名浜公民館で開かれ、小名浜地区の区長や役員、消防団などが参加し意見交換を行いました。

まず、市の担当者が前回の懇談会（平成25年2月4日）のおさらいとして、車で避難することの危険性や津波避難の基本的な事項を説明し、あわせて、8月31日に開催予定の津波避難訓練について説明。その後、前回の懇談会の意見等を反映した計画案について話し合いました。

◎小名浜地区の防災・減災施設整備計画案の内容は次のとおり。

●津波避難場所の追加検討

●防災行政無線の増設検討

●各種サイン（避難誘導、海拔等、避難所総合案内等々）の設置検討

○小名浜地区の避難方針については、次のとおり。
原則として徒歩で避難を開始。

南北に走る主要な避難路へ向かい、浸水想定区域の外へ避難。市街地の平坦な地形を考慮し、できる限り遠方・内陸部（小名浜一中、小名浜一小など）への避難で津波からの危険性を回避。

万が一避難が遅れた場合は、地区内で指定予定の「津波避難ビル」へ避難。

【小名川東部】

原則として徒步で避難を開始。最寄りの高台等（権現山、小名浜二中、小名浜東小、富ヶ浦公園、港ヶ丘団地等）へ避難。

小名川は水が遡る可能性があるため原則として近づかない。海岸部は特に早期の避難開始を啓発。

【その他】

観光客等の避難にも配慮し、主要な避難路の指定や避難所総合案内板の設置等を行うことで、住民や来訪者の安全かつ迅速な避難行動を図る。

市では、今後、これまでの懇談内容をまとめ、施設整備を行う上で必要となる権利者の合意形成や施設管理者との協議調整を行い、「小名浜地区津波避難のための防災・減災施設整備計画」を作成する予定となっています。

防災緑地

ワークショップ

第4回永崎地区防災緑地ワークショップが6月25日、江名中学校で行われました。

前回までの意見を踏まえ

た防災緑地計画の説明のあと、基本事項の確認とコンセプトの提示が行われました。

グループワークでは、これらの利用と管理についての

意見交換が防災緑地の平面図や縮小模型、イメージパースを使って行われました。利用について、地区外の人も

きれいに使い、地区内の人が安心して利用できるようにならいいという意見がありました。管理については、地域

住民と行政の役割を明確にして欲しいとの意見が多く、

草刈や間伐、設備点検、夜間の管理の問題など、今後解決すべき課題が抽出されました。

最後に県から、これまでのワークショップであがつた意見をまとめて防災緑地の設計を決定し、地域の財産となるように地元と協力して防災緑地を育んでいきたいとの提案がありました。

震災を乗り越えて

いわき海星高校ヨット部

一昨年の震災で甚大な被害を受けたいわき海星高校ヨット部。震災の翌日、顧問の斎藤道明先生とヨット部のOBでいわきサンマリーナと同校のヨット艇庫の状態を確認へ。どちらもほとんどのヨットが流され、建物も壊滅状態でした。その後、たくさんの人たちから支援を受け、約2ヵ月後の5月に練習を再開することができました。放課後の活動は主に艇庫とヨットの修理や片付け、筋力トレーニング。週末は猪苗代まで行き練習をしました。そして、その年のインターハイに見事出場。斎藤先生は「部員たちの絶対にあきらめないという気持ちとたくさんの支援があったからこそ出場できた」と話します。

今年6月20日、震災後初めて小名浜の海で練習をすることができました。現在も今後の大会に向け、練習に励んでいます。



▲小名浜の海での練習に部員たちは笑顔を見せました



▲6月16日にブラインドセーラーの岩本光弘さんと岩本さんを支援する団体からヨットが寄贈されました。「感謝の気持ちでいっぱいです。大切に使っていきます」と部長の伊藤雪野さん

自分たちの手で作る虹 光と水の性質を考える

「光と水に遊ぶー虹のワークショップ」が5月25日に江名中学校、6月12日に永崎小学校で行われました。



▲鮮やかな虹を白い体操服に写し笑顔でポーズ



江名中学校では美術部の生徒15名が参加し、青空のもと行われたワークショップ。部長の佐藤桃香さんは「きれいな虹が自分で作れてとても楽しかった」と話しました。

永崎小学校は4年生が参加。天候が悪かったため、室内でプリズムを使って虹の観察をしました。プリズムをのぞくと向こう側の景色が虹色に変化。子どもたちは初めての体験に感動した様子でした。（詳細はP3参照）



▲子どもたちは「文字が虹色に見える!」「先生も虹色!」とプリズム越しの世界に夢中になっていました

「楽しく過ごそう！」がモットー

地域に愛され、地域を愛するなこそ授産所

無駄にはならなかつた
なこそ授産所の活動

今年、発足して35年を迎える「NPO法人なこそ授産所」。現在の利用者は約30名で、いわきおどりや植田公民館まつりへの参加、また、今年3月に行われた「なこそのお望ウオーグ」ではとん汁を振舞うなど、地域の活動に積極的に取り組んでいます。



毎日、午前と午後の2回に分けて行われているお茶会。利用者も職員も、この時間を楽しみにしています

利用者の笑顔とともに： 地域の復興にも協力

震災当時、まだ施設に利用者が残っていたという同授産所。目の前に流れる蛭田川の水が溢れる恐れがあつたため、すぐに利用者を自宅へと帰しました。幸いあと数センチという

ミ子さん。その22年後、3月11日に起きた震災の時も同じことを思つたそうです。



今年行われた味噌の大きな仕込み作業には、利用者と保護者、職員、ボランティアを含めた約40名が参加



特定非営利活動法人
なこそ授産所 理事長
高村トミ子さん(73)

佐糠町にある自宅が床下浸水し、自身が大変な思いをしながらも授産所を守り続けた高村さん。利用者への思いを話してくれました。

普段は、私たちが彼らの面倒を見ているようですが、震災の時は彼らの笑顔にとても救われました。“利用者の笑顔は何よりの財産”。この笑顔を地域に振り撒いて、もっとたくさんの人たちに理解していただきたいです。

地元に密着した活動を継続してきた授産所ですが、平成元年の6月には火事という憂き目に遭いました。その時必死に協力してくれたのが、地元の方だったそうです。「今までの活動は無駄ではなかつた」と話す、同授産所理事長の高村ト

ミ子さん。その22年後、3月11日に起きた震災の時も同じことを思つたそうです。

地元のみなさんに大好評です。この味噌は、利用者と職員のみなさんが一から作るお手製の味噌で、5月29日には年1度の大きな仕込み作業が行われました。そして出来上がった味噌は、公民館まつりや歩行者天国などで利用者さん自ら販売。時には遠方に足を運び、移動販売も行っています。

3日後には炊き出しを行い、給水所などにも利用できるよう施設を再開。また、利用者のみなさんを集めてレクリエーションを行い、心を落ち着かせたそうです。

その後、4月11日の余震でさらに甚大な被害を受けた授産所は、昨年1月に耐震補強工事を開始。同年3月に完了し、5月12日には完成を祝う感謝の集いが行われました。

震災後も、以前と変わらずに活動を続ける同授産所。今年は35周年の記念事業も企画しているそうです。高村さんは「これからも利用者と一緒に町の活性化に貢献してみたい」と笑顔で話しています。



昨年行われた、いわきおどり勿来大会での様子



植田ふれあいサロンのみなさんと一緒に行われた、柏もちづくり交流会

無駄にはならなかつた
なこそ授産所の活動

地元のみなさんに大好評です。この味噌は、利用者と職員のみなさんが一から作るお手

ところで水は溢れませんでし
たが、建物は瓦が落ちるなどの
被害を受けました。

「火事の時はみなさんに助
けさせてください。今度は少し
でも地域の力になりたい」と
考えた高村さんは、震災から

3日後には炊き出しを行い、
給水所などにも利用できるよう
施設を再開。また、利用者の
みなさんを集めてレクリエー
ションを行い、心を落ち着かせ
たそうです。

その後、4月11日の余震で
さらに甚大な被害を受けた授
産所は、昨年1月に耐震補強
工事を開始。同年3月に完了
し、5月12日には完成を祝う
感謝の集いが行われました。



毎年作成しているという、一年のしおり。中は利用者が描いた、たくさんの絵で賑やかな紙面となっています

岩間地区

防災緑地ワークショップ

第1・2回

6月1日と23日、岩間地区の防災緑地整備に関するワークショップが開かれました。

第1回は、「防災緑地を知ろう」をテーマに常磐共同火力(株)勿来発電所内で行われました。県いわき建設事務所より防災緑地の計画概要について説明がなされたあと、建設予定地に移動し防災緑地の実寸大模型の見学が行われました。その後参加者は5班に分かれ、どんな防災緑地にしたいか意見を出し合いました。

第2回は、「防災緑地のイメージとコンセプトづくり」をテーマに勿来支所で行われました。東京藝術大学の北郷先生と元倉先生、樹木医の木田先生による講話が行われ、それを参考にどのように利用したいか、どんなものがほしいかななど、具体的なイメージとコンセプトづくりのための意見交換

がなされました。

なかでも特に重要視されたのは維持管理の問題。震災後、住民が少なくなってしまった岩間地区では、残った住民だけでの維持管理は難しく、ゴミ箱やトイレなどの設置は避けてほしいとのことでした。また、震災の記憶を風化させないため、祈念公園を整備してはとの意見も出されました。

なお、第3、4回の開催は7月中に予定。4回には最終案が提示される見通しです。



▲防災緑地実寸大模型。一番上の部分がTP+7.2mの高さで緑地地面となります



7月27日(土)

※小雨決行

●第31回
いわきおどり勿来大会
時間／18:00～19:30
場所／植田パティオ通り

●第17回
なこそ鮫川花火大会
時間／20:00～21:00
場所／鮫川河川敷

■駐車場
植田小学校グラウンド
時間／16:00～22:00



詳細、問い合わせは、勿来区画整理事務所沿岸域復興推進第一係まで
☎ 0246・63・2111
(内線 5392)

植田町の新たな名物イベント 初開催!



晴天にも恵まれ、たくさんのお客さんが足を運びました
び、新鮮な野菜や惣菜などを求めるお客様で賑わいました。

なお次回の開催は、7月20日(土)15:00～17:00となっています。

▼ゲストとして、地元フォークバンドの「音屋俱楽部」による演奏も



▲地元農家のみなさんによる軽トラ販売は、お客様に大人気でした

防災集団移転先団地の宅地引渡し手続きが開始

錦町須賀地区的防災集団移転促進事業による移転先団地の宅地引渡しの手続きが、6月10日から開始されました。

現在、同地区では21世帯が集団移転、18世帯が個別移転を予定。また、個別移転希望者のうち7世帯は、災害公営住宅への移転を希望しています。

宅地の引渡しが行われる移転先については、勿来錦第一土地区画整理事業区域内の錦町ウツギサキ地内(図面参照)。売買区画が14区画で、賃貸借区画が4区画と予定されています。

みんなで挑戦!
光と水を利用した、
世界にひとつの虹づくり

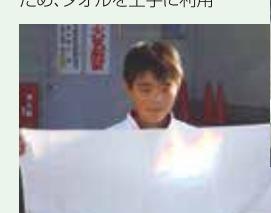
5月31日、錦中学校で「光と水に遊ぶ一虹のワークショップ」が行われました。

参加したのは、同校美術部に所属する17名の生徒たち。太陽の光を鏡に捕らえる作業に苦戦しながらも、2人1組となって虹づくりを楽しんでいました。

(詳細はP3参照)



▼きれいな虹を出現させるため、タオルを上手に利用



ふれあい通信

応急仮設住宅や雇用促進住宅のイベント紹介

中央台高久第一仮設住宅

●鹿児島から笑顔を届けに来市

6月15日、集会所に鹿児島県最大のボランティアグループ「さわやか会」が訪れ、演芸や伝統音楽などを披露しました。次々に出されるネタの数々に、会場は笑いの渦に包まれました。



バルーンを使ってアンパンマンや犬などを作り、子どもたちにプレゼントしていました

●ボランティアと子どもたちの遊びを通じた交流

6月23日、集会所に田園調布学園大学(川崎市)の学生ボランティアグループが訪れ、子どもミニ縁日を開きました。ゴム射的、一円玉落とし、うちわ製作体験などで楽しみ、集会所に子どもたちの笑顔と歓声があふれました。



学生ボランティアのみなさん。子どもたちと会話をしながら楽しんでいました

災害公営住宅の入居に関する市民への意向調査結果

市は東日本大震災の津波や地震で自宅を失った6,367世帯を対象に、3月1日から15日に郵送で実施した2回目の同調査結果を発表しました。

入居希望者は必ず回答するよう要請し、全体の40.7%2,594世帯から回答があり、前回調査から181世帯増加の1,637世帯が入居を希望しています。

5月に設置した入居選考基準検討委員会が9月までに入居基準の策定を予定しており、それを受け10月中旬から入居申し込みを開始する予定です。

防災行政無線電話応答サービス開始

5月1日から、風雨時など防災行政無線放送が聞きづらい場合など、電話で直近の放送内容が確認できるサービスが開始されました。

各種気象注意報・警報、地震情報(震度5弱以上)、津波警報・注意報(サイレン放送)、避難勧告・指示などをお知らせします。
(お問い合わせ)市危機管理課 ☎0246-22-1242

専用ダイヤル ☎0246-21-9901

相談コーナー

●国民年金保険料の納付に関するご相談

- ◆平成25年度国民年金保険料免除申請開始
- ◆前年の所得が少ないなど経済的な理由で保険料を納めることが困難な場合の、平成25年度の免除申請を7月1日より受付しています。
(お問い合わせ)市国保年金課国民年金係 ☎0246-22-7464
平年金事務所国民年金課 ☎0246-23-5611

ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください!

- メールの方/furusato@asally.co.jp
携帯電話からのメールはQRコードを読み取ってください。→
- FAXの方/☎0246-26-5157
- おたよりの方/左記編集室まで



いわきあいあいで情報発信中!!
いわきあいあい 検索

Click

21世紀の森公園
復興フェスティバル2013

21世紀の森公園で外遊びを楽しむ

6月15日、21世紀の森公園で復興フェスティバル2013～いわきの元気は子どもから～が開催されました。多目的広場では芝生の上でドッジビー、スポーツ輪投げなどの新しいスポーツが行われました。またミニSL、ふわふわ遊具、木工体験コーナーにもたくさんの子どもたちが訪れ、歓声を上げて楽しんでいました。

青空ステージでは、ダンスステージやコンサートも行われ、子どもたちへ熱い視線と拍手が送られていました。



いわき市石炭化石館のマスコット「ほるるくん」は、大人気



ステージではチアリーディングチーム「クラップス」が元気な踊りを披露しました

いわきおてんとSUN企業組合
太陽光発電設備の落成式

いわき市を拠点に地域づくり活動を行ってきた、NPO法人ザ・ピープル、NPO法人インディアン・ヴィレッジ・キャンプ、NPO法人ふよう土2100が中心となり、市民による市民のための地域づくりを協働実践していく組織「いわきおてんとSUN企業組合」を発足させました。

5月25日、同企業組合の活動の1つである太陽光発電設備の落成式が、小川町柴原で行われました。式には、設備建設のため山林の開墾整地やパネル設置に携わったボランティアや関係者約50名が出席しました。



縦125cm横100cmのパネル129枚が設置され、最大で月に20万円の売電が見込まれています

イベント情報 第3回フラガールズ甲子園開催

8月25日(日)12:30より、いわき芸術文化交流館アリオス大ホールにて、10都県から初出場校13校を含む23校が出場。当日は、インターネットによるライブ中継を放送します。上位入賞5校は翌日、ハワイアンズでエキシビションを行います。

イベント情報 夏祭りに日本太鼓TAKERUが登場

7月28日13:00～16:00、内郷雇用促進住宅集会所にて夏祭りを開催します。当日は、世界各地で精力的に活動するプロ和太鼓奏者TAKERUが出演します。昨夏のチャリティ演奏から約1年ぶりの来市。どなたでも参加することができます。

表紙の人

- 菊田スポーツ少年団 ●木村愛海ちゃん(6年・左)
バレーボール部 ●吉田怜輝ちゃん(6年・中)
- 平山莉己ちゃん(6年・右)



バレーボールを始めたばかりの3人組。バレーボールを始めてからずっと一緒に頑張ってきた3人は、来春に小学校を卒業します。現在は8月に行われる大会に向けて練習を重ねる日々。キャプテンを務める怜輝ちゃんがチームをまとめ、一丸となって優勝を目指します。